

# 2015年夏 「アンゼラスの鐘」 上映と被爆体験を聞く会

## 第1部

# アニメ アンゼラスの鐘 上映会

(10:10～11:30)

(2005年・虫プロ作品)

70年前の1945年8月9日、2発目の原子爆弾が長崎に投下されました。このアニメ映画は、爆心地から1.4キロ離れた浦上第一病院で、自ら被爆しながらも懸命の治療を続けた青年医師・秋月辰一郎の姿を描きます。

直接熱や爆風に遭わなかった人達の髪が抜け、歯茎から出血し、至る所に紫斑が出る…。今日の原因事故にも共通する放射線被害、内部被曝の恐ろしさを訴えてきます。

被爆60周年平和祈念作品・2007年ニューヨーク国連本部上映作品  
文部科学省選定・児童福祉文化賞推薦作品・日本原水爆被害者団体協議会推薦他  
製作：「NAGASAKI・1945 アンゼラスの鐘」製作委員会  
原作：秋月辰一郎「長崎原爆記」「死の同心円」  
脚本・監督：有原誠治



## 第2部

# 被爆体験を聞く会

(11:40～12:10)

お話しする人

太田 安子 さん

原爆が投下されたあの日は雲一つない空に真夏の太陽がふりそそいでいた。同じ兵器工場の事務所に勤務する学徒動員の友達と一緒に、民間の人家の井戸まで貰い水をする為に工場近くの道を歩いていた。警戒警報も解除になっていたので私達二人は、何かお喋りをしながら歩いていると、小さな爆音が聞えてきた。その爆音が徐々に大きくなり私達は空を見上げた。その瞬間キラキラと光るB29が急降下してきた。一瞬身の危険を感じ近くの小さな空家に飛び込んだ。

幸いその家は政府から強制疎開させられた空家のような空家だった。建具らしいものは何もなく私達は一気に走り込んだ。余り早く走ってその家の裏に抜けてしまい慌わてて逆戻りした瞬間、カメラのフラッシュを浴びたような青白い光を感じたのが最後だった…

富山県被爆者協議会 証言文集『叫び』長崎編より

主催 核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会

後援 富山県被爆者協議会、富山県保険医協会

参加申込書

Fax 076-442-3033

申込者 氏名	
-----------	--

とき

8月9日(日)

午前10時～12時30分

(長崎への原爆投下は8/9の午前11時2分)

会場

サンシップとやま 福祉ホール

富山市安住町5-21 TEL 076-432-6141

参加費 無料

\*会場準備のため、事前のお申込みをお願いします。

<連絡先>

核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会  
富山市桜橋通り6-13 フコク生命ビル11F  
電話 076-442-8000

大人	人
中学生以下	人



# 「アンゼラスの鐘」上映と被爆体験を聞く会 (2015年8月9日)

## アニメ映画「アンゼラスの鐘」あらすじ

(画像提供: 『アンゼラスの鐘』製作委員会)

上映が始まる製作支援団体の名称が並び、その中に『核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会』もあります。

(図①) スクリーンを揺るがす原爆投下シーン

映画は、浦上神学校の建物に敵対宗教との理由による軍の接収から守るため、医師を招聘して結核療養病院に衣替えするところから始まります。そこに赴任したのが若き秋月医師です。その浦上第一病院のスタッフたちは戦時中の不

自由な中でも、地域の患者のために献身的に働きます。

(図②) 八月九日午前十一時、いつものように畑で働く老人たち。校庭で遊ぶ子どもが飛行機の音に気づいて空を見上げると

油を塗るだけの治療が次々と不可解な症状が

被爆直後から秋月らは入院患者はもちろんのこと、周辺

リンを駆けめぐります。天主堂の鐘楼が吹っ飛び、アンゼラスの鐘が瓦礫に埋もれ、木造家屋は一瞬で消え、青く晴れていた空が夜のよう

に暗くなり、人々のつめぎと助けを呼ぶ声だけが聞こえます。炎に包まれた病院で必死の救出活動。爆心地からかなり離れた病院でこの状態です。長崎市街は想像できない状況です。(図④)~⑦)

数日経って不可解な症状に遭遇します。直接熱や爆風に遭わなかった人たちの髪が抜け、歯茎から出血し、至る所に紫斑が出て、次々に亡くなっています。

中でも母親が両手に火傷を負いながら燃える家からようやく救った元気な子どもたちが、幼い順に次々と亡くな

ていく様子はあまりにも無理な尽で涙が止まりません。原爆は助かって安堵している人も、爆心地から近い順にじわじわと殺していく、まさに悪魔の兵器です。(図⑩)~⑪)

爆心地に近い患者からまさに死の同心円

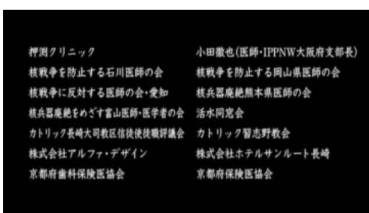
放射能による患者たちの苦しみに対し何もできない焦燥感と無力感に襲われながら、修羅場を逃げださなかった秋月たち。爆心地に近い人から亡くなっていることから、秋月は「これは死の同心円だ」とつぶやきます。

九月に入って、枕崎台風が襲い、秋月らは患者たち安全な霊安室に避難させます。結果的に台風は汚染された水や土を洗い流し、占領軍の放射能測定がその後行なわれたことをナレーションが抗議を込めて静かに伝えます。

(図⑫)~⑬)

瓦礫の中から掘り返されたアンゼラスの希望の鐘を鳴らすところで映画はエンディングを迎えます。

(図⑭)~⑮)



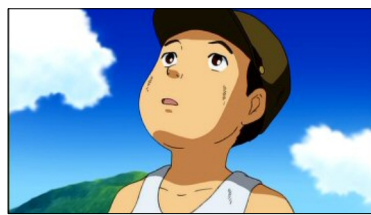
① 左上4段目「…富山医師・医学者の会」



② 浦上第一病院に向かう秋月辰一郎



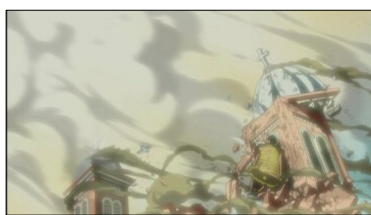
③ 往診する秋月医師、村井看護婦



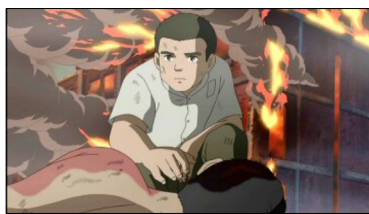
④ B29の爆音に空を見上げる少年



⑤ 爆心地から押し寄せる衝撃波



⑥ 崩れ落ちる浦上天主堂の鐘楼



⑦ 燃えさかる病棟から患者を救う秋月医師



⑧ 列をなす患者を懸命に治療する



⑨ 戦争をあおる町内会長をいさめる



⑩ 不可解な症状の患者に愕然とする



⑪ あんなに元気だった子どもたちが…



⑫ 患者を救えない無力感に耐える秋月



⑬ 「これは死の同心円だ」



⑭ 暴風雨のなか患者を避難させる



⑮ 台風が汚染物質を洗い流した



⑯ アンゼラスの鐘に希望を託す人々

